

受注企業動向調査結果

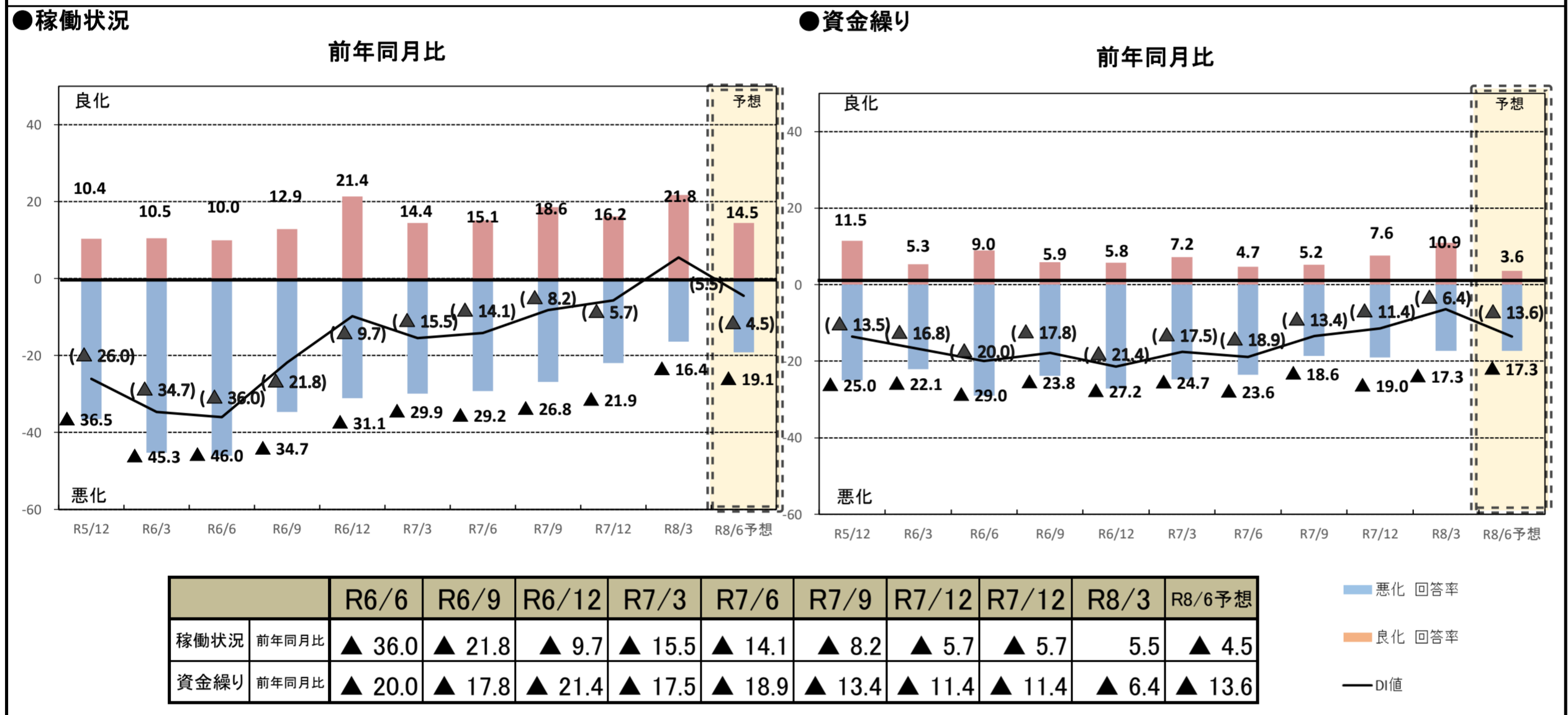
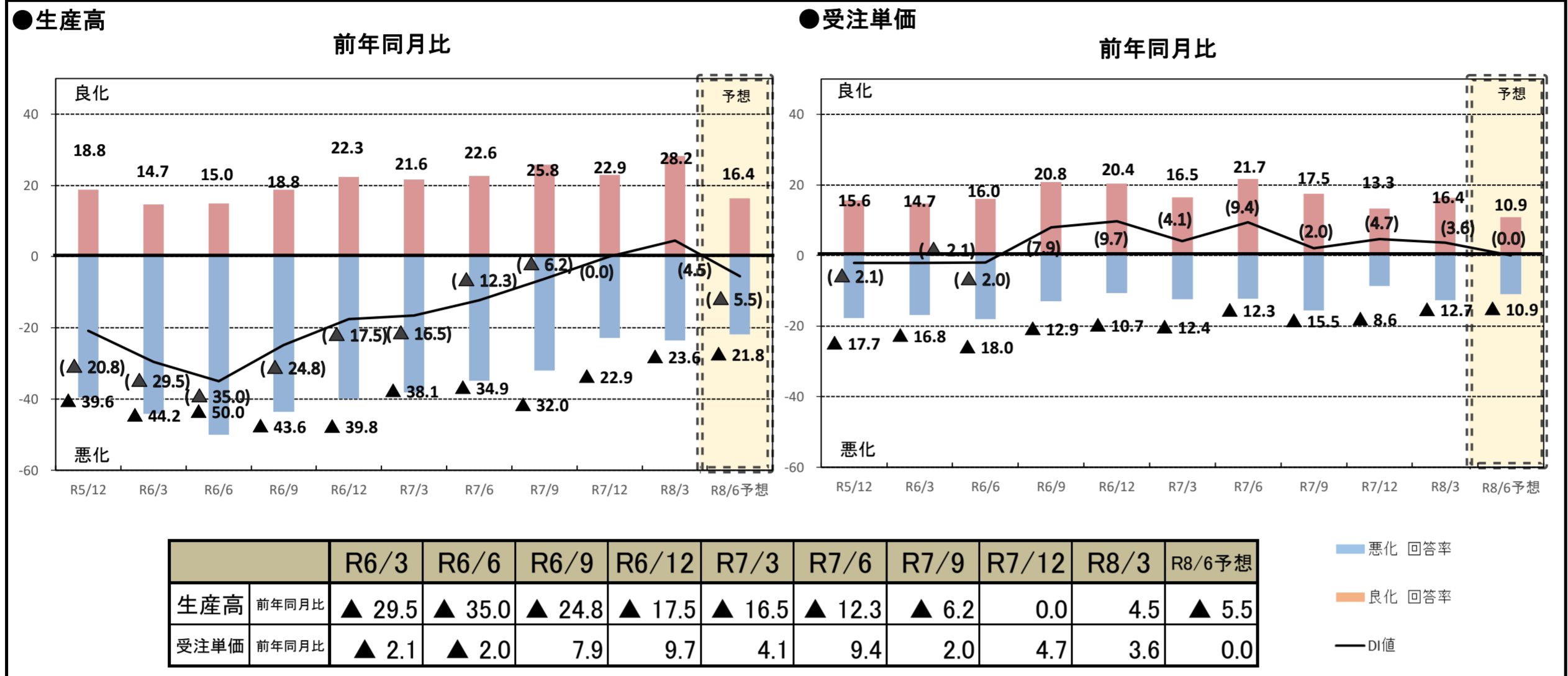
-2026.3-

- 調査時点 令和8年3月調査(令和8年3月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 110社(回答率:73.33%)

<業種内訳>

プラスチック	9社
鉄鋼・非鉄	8社
金属製品	22社
一般機械器具	28社
電気機器	21社
輸送用機器	7社
精密機器	8社
縫製	7社
計	110社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。



●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)DIは4.5で、前回の0.0から4.5ポイント増となった。
- ・受注単価(前年同月比)DIは3.6で、前回の4.7から1.1ポイント減となった。
- ・稼働状況(前年同月比)DIは5.5で、前回の▲5.7から11.2ポイント増となった。
- ・資金繰り(前年同月比)DIは▲6.4で、前回の▲11.4から5.0ポイント増となった。
- ・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲5.5、受注単価は0.0、稼働状況が▲4.5、資金繰りは▲13.6という予想になった。
- ・その他自由意見として、

【一般機械器具】

- ・人員確保が難しい。
- ・収支改善活動や値上げが結実し、現状は好調。しかしイラン攻撃による仕入・受注への影響が未知数で先行きは多難。
- ・人員不足感が強い。新卒採用は見込めない。
- ・3か月先の状況は白紙の状態。
- ・2か月先の状況を見るのは難しい。

【金属製品製造】

- ・国際情勢(イラン攻撃)の影響が不安。

【プラスチック】

- ・中東での戦争により原料の確保が心配。
- ・受注の増減が大きく、資金繰りが厳しい。

【縫製】

- ・ニットの生産量がコロナ渦以降年々減少。さらに季節の二季化や物価高の影響で最悪の状況。会社の維持が限界を超えており、今すぐ救済が必要。

【鉄鋼・非鉄】

- ・昨今の情勢により、原材料の銅・原油の暴騰で今後の仕入れに対して強い懸念がある。

【電気機器】

- ・1月からの最低賃金引き上げは採算が厳しくなる。

【輸送用機器】

- ・人手が不足しており、外国人採用を考えている。協力企業の人員不足による廃業が増えている。行政も本気で考えないと連鎖廃業も起こりうる。

という意見が寄せられた。